

# 肝内胆管癌にて肝臓切除術を受けた患者さんへ 研究協力のお願について

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の相談窓口へお問い合わせ下さい。ご連絡がない場合においては、ご了承をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、この研究は、金沢大学の倫理審査委員会の審査を受け、研究責任者の所属機関の長の承認を得て行っているものです。

## 1. 研究の対象

2011 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日の間に肝内胆管癌にて肝臓切除術を受けられた患者さん

## 2. 研究の概要

研究課題名	肝内胆管癌の末梢型と中枢型における解剖学的分類の妥当性に関する研究 ～日韓合同プロジェクト～
研究期間	承認日 年 月 日 ～ 2027 年 3 月 31 日
目標数	全体約 1600 例（そのうち兵庫県立がんセンター：26 例）

肝内胆管癌の治療は、外科切除が最も有効です。近年、肝内胆管癌の肝臓内における部位、つまり肝臓内の辺縁部（末梢型）または中心部（中枢型）など画像検査で確認された腫瘍の位置の違いが、腫瘍の悪性度や手術後の治療成績に影響することがわかってきました。しかし、肝内胆管癌の患者さんは大変少なく、これらの肝内胆管癌の特徴を十分に評価できていません。そこで、本研究では日本および韓国の多数の医療機関より、多くの肝内胆管癌の患者さんの情報や治療成績を集めて、腫瘍の位置に基づく分類の有用性を評価します。

## 3. 研究の目的・方法について

本研究では、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医の認定修練施設あるいは韓国肝胆膵外科学会の会員施設において、肝内胆管癌にて肝臓切除術を行った患者さんのデータを調査し、肝内胆管癌の腫瘍の位置に基づいた分類の意義や妥当性を明らかにすることを目的とします。この分類の有用性が明らかになれば、肝内胆管癌の進行度や予後予測を手術前に推定できる可能性があり、また術式選択にも有用な指標となる可能性があります。

## 4. 研究に用いる試料・情報の種類

この研究で利用させて頂く診療録より収集を行うデータは、患者さんの個人情報（年齢、性別）、術前後の血液検査情報、画像診断情報（CT・MRI検査）、手術関連情報（術式、手術時間、出血量等）、病理組織診断情報、術前術後療法の情報（化学療法、放射線療法等）、術後予後情報です。カルテから情報を得た時点で氏名、住所、生年月日等の個人を特定できる情報は削除します。本研究で得られた研究対象者の試料・情報は、本研究目的以外に使用しません。検体は利用しません。